

# 小兒消化不良症の話

醫學士 内海 靜 一

小兒の御腹の病氣で一番油斷し易い者は、急性消化不良症であるかと思ひます、未だ莫大したことはない、また賣藥位で濟ましておけ、などと泰然としたる内に、突然病狀が重くなつて來て、如何なる療法を施すとも救ふことの出來なくなる様な破目に陥ることは屢々ある病であります。實は此の病氣は季節から云ふと夏季に一番多いのであります、秋冬になつても全然根絶すると云ふことはない、此のときでも能く見るのであります。それで、今申上げてお決して時節はづれではありませぬから、其の大畧の要點を、御話して世の母親たる方々の御注意を惹起したいのであります。

此病氣は一言に云はば、御腹の病氣であります、さう申せば、はしそれなら嘔吐下痢であるかと合點なさるゝであります、所が簡單な容體ではないのであります。勿論下痢が第一の徴候には相

違ないのであります、其の外種々の病狀が現はれて參りまして、時には腸膜炎などと間違ふ様な事もあり、時には小兒虎列刺と間違ふこともあるし、左に右色々の病狀があるのであります。

然らば甚麼性質の病氣であるか素人方で分るだけの容體を申し上げましょう。勿論此病氣にも輕重がありまして、一定した標準はないのであります、茲には先づ輕い方から御話致しましょう。

輕症のものは殊更多く御座りまして、即ち春夏秋冬何れの時季を問はず絶えず有るものであつて、重症のものは先づ孰れかと云ふと、殆んど夏季にのみあつて涼しくなると少ないのであります。從つて輕症のものも夏に多いには相違ないので、其故輕症のものを能く注意して居ることは必要であります。此の病氣の常として先づ便通の度數が殖ゐるのであります。普通哺乳兒では一日一二回便通があつて、便の性質も黄色い菜の花色であつて、甚い惡臭もなく左程硬くもなく、又左程柔くもないのであります。所が急に便通の度數が一

日三四回から多くなると十回十數回にもなるのであります。大便是黄色くなくて青みがかつて、其内に粟粒から米粒大の黄白色の粒々が澤山に混つて居りました、臭ひも厭な不快なる一種の鼻を突く様になりまして、粥の様に柔になつて参りま

す、激くなると水瀉様に出ることもあります。小兒の氣分も稍々優れなくなつてくる併し玩具などを弄ぶのは平素に變らなくない。軽度の熱の出ることが多くて先づ三十七度五分から八度位の體温になり易う御座います。そうなつてくると機嫌が悪くなる。焦れてくる、能く啼く、玩具にも厭つ

ぼくなつて來て無暗と泣く、泣くから母親は小兒の啼泣に對する第一の武器である乳房を口に給ふ、畢竟、時間も不正確に只無暗と母乳を飲ませる。甚しきは種々の菓子類を與る、また甚しくなると鹽煎餅などをやる、斯う云ふ不養生の爲めに可憐にも小兒の胃腸は益々掻き廻されて、病氣は益々重くなる一方であります。本病の本態として消化が悪くなるから食欲も減退する、小兒は餘り乳を要求しなくなる、平素なら普通は乳房に十

分乃至十五分間位吸著くと小兒自身から自然に乳房を離すものであります。此病氣になるとそう長くは吸はない又大抵夜間の睡眠も不完全になつて参りまして、屢々眼を醒ましては啼泣する、併し極輕度のもものでは安眠し得るのであります。睡眠の不完全になるのは腹痛の爲めでもあります。し、何處となく精神の不安となる爲めでもあります。ようし、熱の爲めでもあらうし、色々の原因で起すのであります、又能く氣の付く方なれば尿量の減少が氣付きます、一日の放尿の回数が減じて一日三四回にもなつて参りますことが多ふ御座います、併し輕いものには多大した影響はありませぬ。

以上申し上げました徴候があれば消化不良症ではあるまいかと想像し得るのであります。併し便通の回数が多い位では、普通大抵の母親方は莫大した事はないと心得られて、賣藥であるとか、其外色々の姑息療法に依られる方が少なくないのであります。是迄申し上げたのは、輕症の場合でありまするけれども輕度のもので、養生次第では隨分重

くなるのでありますから、手遅れしない様に、成るべく早く醫師に依頼する外はないのであります。又假令重くはならないにしても、慢性になり易いのであります。慢性になると、發熱の途には餘程の時日も費るし、又家庭内では、手當てが非常に六かしい、此の必要なる消化器が侵かされるなど、身體の榮養が不足になる、従つて瘡せてくる、甚しくなると所謂小兒瘦削症に陥る様になり、さうなつてくると、種々の方面から外敵が鋒尖を磨いて攻撃してくる、而かも斯の如き小兒は脆くも敗北するの外はないのです、小兒瘦削症のことは、何れ時機を換へて御話致しませう。此病氣に最も罹り易い時期は、哺乳兒で御座います、生長した後に罹るのは哺乳兒に比較するとずつと少ない、哺乳兒でも母乳でなくて人工榮養に依るものに多いのであります。然らば此の病氣は何をして起るか云ふことを御話し致しませう。そうすれば、云はば此病氣の豫防法は其等の原因に注意すれば佳い理由になるのであります。所が此の必要な此の困難なる問題は、尙ほ暗黒で御座い

まして一定の説はないのであります。然し色々の原因が綜合して居るのであらうと思はれます。母乳を飲ませる量が多過ぎるのは一原因であります。一歳小兒には哺乳期と云ふ期間がありまして生後二日目位から約八九ヶ月乃至一年一二ヶ月間は只乳のみで養育するのであります。其の間小兒をば哺乳兒と申します。其の哺乳兒の飲量は日數又は月數によりて一定して居ります。又身體の發育と共に増量して行かなければなりません。又飲ませる間の時間も加減してやらねばなりません。然し飲量は左に右として間をおく時間を二時間半なり三時間なり規則正しく與ることが普通一般に行はれて居られない様に見受けられるのであります。殊に下等の社會であり加ふるに母親の教育の不完全なる場合に於ては、中々守り難い様であります例へば勞働する女、又は一定の時間内勤める婦人方では時間通りに與る事は出来難い。其れよりは寧ろ麵麩の要求に汲々として急い。是れはまだしも、下層の社會でなくて中流以上の家庭であり乍ら育兒の思想に乏しい點からして守ら

れない方もありましよう。此病氣で熱があると殊更口が渴する、其外氣分も悪い爲めに能く啼く、此啼泣を以て乳を求めるのである空腹な爲めであるといふと、泣く度に乳を給る事もありましようが是れは甚しい考へ違と云はねばなりませぬ。又乳も人乳であれば其の濃度に心配することはないが、牛乳又は練乳を給與へるときは、其生長の時期で濃度を變更せねばならぬ。然るに淡過ぎると榮養が不完全になるし濃過ぎると又消化器を害する様になります、故に其の濃度は小兒の榮養状態と生後日數等から割り出して一定してやらねばなりません。母乳では這麼心配は一寸もないのであります。凡て胃の中には胃液とて一定の消化液が、胃壁から分泌される、其の分泌液は今注ぎ込まれた牛乳を一生懸命に消化させる、消化したものは直ちに腸管の方へ運ばれるのであります。然るに無暗に乳を注ぎ込むと消化液は不足であるから、不十分に消化されたものが腸管に送られると腸の神経筋肉も持て餘して腸管の蠕動運動を盛に起して腹痛を起したり下痢を起したり

して本病を起します。要するに過食は悪いのであります。又食物の變質したものが悪ふ御座います、母乳又は乳母の乳は例へば酒精又は其外の有害の毒素を食ると之が乳中に含有せられて、小兒胃腸障礙の原因となることがあります。又牛乳も同様に牛を飼養する食料の爲めに變質して有害のものを含有することもあります。又牛乳は腐敗し易いものであります。牛乳の消毒が不完全であれば空氣中から數千萬の細菌が牛乳一瓶の中に這入りますから消毒しないで長く空氣に放置しますると間違ひなく腐敗致します。殊に暖い時候では一寸も油斷が出来ませぬ、其故近來は用心深い家庭では、一定の熱氣消毒を行ふて、寒冷な所に貯藏して之れを飲ます様に心掛けられる方が段々殖えて參りました様であります、之に反して牛乳を大鍋か何かで、煮沸させた所で、甚だ不完全極つた消毒法と云はねばなりません。何れ是等の事に就きては後日御話致しまする時期が有りますし、又腐敗した牛乳は臭も味も變つて居ますし、又成分が分解して凝固しますが、腐敗の初期で

は未だ、其等の事が能く區別が付き難ふ御座います。又乳牛中に一種の腸加答兒的の流行病が傳播して、多數の仔は之れに罹る事があります。那麽時機には之れを飲む小兒は犯され易ふ御座ります。之れは一種の黴菌による流行病であります。其故牛乳の性質の可否は大に注目を値するのであります。又或大家の如きは此病氣は一種の傳染病であると申される様になりまして、つまり一種の黴菌が原因をするのであると云ふ説であります。此の傳染病と云ふ説は有力であります。次に重症消化不良症に就いて申し上げましょう。重症となる軽症の時の徴候以外に種々と外の症狀がまして参ります。大便是粘液の混じつた泡立つた、色は黄色く又茶褐色になりまして、殆んど水瀉様であつて一種の鼻を突く様な臭が致します。便通の回数も増して一日七八回から十回十數回にもなりまして、一回の量は極少量宛であります。扱て茲に最も懼るべきは嘔吐であります。乳を飲

むだ後白色の凝固した、恰好豆腐を碎いた様な小片と粘液の混つたものを吐き出す様になると、其れは餘程危険な徴候であります。併し素人方では一二回の嘔吐があつたとて之れには一向に平氣で居られる方が多い様に見受けられます。嘔吐が何故危険の險であるかと云ふに第一食物を胃が受け付けなくなるのでありますから、榮養物を口から與へる事が出来ない、只管衰弱瘦肉を待つの外はない。つまり手が付けられなくなるのであります。又此病氣では嘔吐が初まる頃には既う餘程外に一般の病勢が重くなつて参りました。中毒症狀も劇烈になつて居るのであります。嘔吐が劇しくなると乳を吸ふ度毎に吐く様になります。そうになると口から一切食物を給與する事が出来なくなりま。従つて口から投薬することも出来なくなる。其故私共の方では嘔吐を一番に恐れて居ります。又嘔吐のある患兒は既う助からぬ者が多う御座います。一言添へておきますが、茲に申します嘔吐は消化不良症のときであります。其外に嘔吐のある病氣は澤山ありますから、嘔吐

が あれば此の病氣であるとき考違へられては困るの  
 であり、又時々腹が鳴るし、腹に手を觸れる  
 と腹痛のある爲めに甚く啼くのが普通であります。  
 又随分劇しい熱が起さる、三十九度から四十  
 度にもなる甚しきは四十一度になつた事もありま  
 した。患兒は随分苦悶する呼吸使ひは忙しくな  
 る。體重は甚しく減少して、日に日に瘦せる。顔  
 色は甚しく憔悴して眼に光りなく朦朧として、口  
 唇から舌はから／＼に乾燥する。又時々手足に瘡  
 癩が起つて、容貌は惘然として來て、玩具を戲弄  
 そうともせず。如何なる音を聞いても知らない状  
 態である。小便の回数も餘程減つて來て、一日二  
 三回から、甚しくなると一回位に止まることも  
 ある。渴は随分劇しいから、斯ふなつて來ても、  
 茶なり、湯なり、能く飲みます。乳でも能く飲み  
 ます。これは食欲があつて飲むのではなくて、全  
 く渴の爲めであり、然るに、それは能く素人  
 方に間違へられて、母親は、これを乳の不足と心  
 得て、幾度でも乳を與へる、益々胃腸を傷めるの  
 であります、此の間違ひは能くありまして、患兒

の容態の輕からざることを話すと、母親は、能く  
 それでも、乳は如何程でも飲むと云つてなかく  
 信じられない方もあります。  
 斯く病勢が進むて來ては、十中八九迄は助かりま  
 せぬ。如何に充分の手當を施しても、大抵の場合  
 助かり難う御座います。其時に及んで、手遅れで  
 あると、後悔しても、もう追つ付かない。大抵醫  
 師の診察を乞はれるときに、病氣は餘程進むて居  
 るときが多う御座います。これ一つには、病氣が  
 急性であつて、進行の早いものと、一つには、小兒  
 の嘔吐下痢位の事は、豈夫と輕視されて、賣藥な  
 らで濟まさうとなさるからであります。其れが  
 第一の危険を招く原因となるのであります。普通  
 よりも大便が軟かくて回数が多い頃には、一日も  
 早く醫師に頼まれたならば、大抵は、適當の療法  
 の下には、癒るものであります。併し療法を一步  
 誤ると治癒は豫期し難う御座います。進むて、體  
 温は高くなり、嘔吐もあり、容貌も朦朧として居  
 るときには、餘程嚴重の療法でも最う助かり難い  
 のであります。

此の病氣の手當は、家庭の多大な注意と、醫藥とが相俟つて、始めて效を奏するのであつて、醫師にのみ頼り、醫藥に重きを置かれ過ぎて、藥丈けで治るものと考へられては、間違ひであります、これは一般の療法に通じて、同一であります、醫藥も成程必要には違ひありませんが、同時に家庭の方は、食物の事、室の事、空氣の流通の事、光線のこと、凡て萬般の事皆醫の命に従はれて、始めて藥の効力が顯はれるのであります。宜加減の姑息療法に依らるゝことなく、直に醫に頼まれて、重患に陥らない様に心掛けねばなりません、一般に世間では、醫藥にのみ、重きをおかれる結果、藥丈けは、醫の命令通りに與へられるが、食餌の方は、輕視され易い傾がありまして、醫の定めたる量よりも多量に與へられる様に見受けれます。殊に消化器の病氣では、過食は大禁物でありますから、成るべく少量に、與へるのであります、所が頭是なき小兒の方では、甚く強請る、煩さく啼く、斯うなつてくると、傍で看護される方は、人情に絆されて、辛抱し切なくなると云ふ風になつて、

不知規定を破りたくありません。是が病氣に取つては、甚だ宜しくない。醫の方でも、其結果を視るべき筈なのに、一向に快くならないと思ふ、醫に取つては、大變な迷惑であります。又此の病の癒り掛かつた頃は、太く空腹に感ずるものでありますから、健康の時よりも、一層に食欲が増す、此時には、兎角醫の規定を破りたくないのであります、折角治つたものを癒へす事のない様にしたいものです。

其外治療上に就いての御注意はありますが、兎に角醫の命に違ふて居られる事が、治療法の第一方針であります。

### 雜報

●色彩研究に關する講習會 本會研究部は去月十日より文學士菅原敏造氏を聘して色彩に關する講演を開きたり。講習員約七十人四回の講演にて去月末に結了せり。